

文部科学省委託事業
高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育

島根県立邇摩高等学校 研究開発実施状況

島根県教育委員会

1

本日の説明

- 1 学校の概要
- 2 研究開発の課題
- 3 研究開発の概要
- 4 研究開発の内容と実施
- 5 成果と課題

2

1 学校の概要

(1) 全日制総合学科

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	総合学科	74	3	74	3	97	3	245	9
	計	74	3	74	3	97	3	245	9
計		74	3	74	3	97	3	245	9

(2) 学校の特色

- ・「邇摩高校活性化プラン」の施策に特別支援教育の充実を掲げ、本事業を中核に位置づける
- ・履修科目を主体的に選択できる
- ・校地内に知的障がい特別支援学校分教室(高等部)が設置されている

3

1 学校の概要

(3) 学校の状況

- ・特別支援学校分教室と高等学校の生徒同士の交流及び共同学習や教員間の特別支援教育に関する合同研修を実施している。
- ・高等学校の生徒の中に、中学校時に通級指導教室を利用していたり、発達障がい等の診断を受けていたりする等、特別な支援や継続した特別支援教育を必要とする生徒の数が増加している。

4

2 研究開発の課題

高等学校に在籍する障がいのある生徒の自立と社会参加を図るため、特別支援学校や発達障害者支援センター等と連携して、自立活動を取り入れた特別の教育課程の編成及び一斉授業の改善工夫に関する研究開発

5

3 研究開発の概要

(1) 研究仮説

①隣接する特別支援学校分教室の自立活動担当教員が訪問指導することにより、障がいのある生徒への自立活動の指導をとおして、障がいのある生徒が「人間関係の形成」および「コミュニケーション」を中心としてスキルを身につけ、授業時間や休み時間、部活動等の学校生活において、より円滑な人間関係を築くために適した行動をとることができる。

②教務部を中心として、学校全体でICT機器の活用による『見える』学びを目指して」をテーマに、一斉授業の改善工夫を行うことで、障がいのある生徒にとっても、障がいのない生徒にとっても、わかりやすい授業を行うことができる。

6

(2) 研究開発の内容

- ①個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、自立活動の「人間関係の形成」や「コミュニケーション」を中心とした指導内容や評価方法等について研究する。
- ②一斉授業の改善に向けて、生徒への授業改善に関する意識調査のアンケートを行い、その結果を踏まえた、課題解決のための取組やICT機器を活用した支援の在り方について研究する。
- ③全教職員で研究に取り組む校内組織をつくり、生徒や保護者への説明やアプローチ、実態把握のシステム構築を図る。

7

(3) 実施状況

①自立活動の実施

- (H26年度) ・1年生対象生徒4名は課外で実施
- (H27年度) ・1年生対象生徒6名は課外で実施予定
- ・2年生対象生徒4名は教育課程内で実施

②一斉授業の改善工夫等

- (H26年度) ・生徒への授業改善に関する意識調査アンケート実施、分析、ICT機器を活用した支援の在り方について検討
- (H27年度) ・ICT機器を活用した支援の研修と実践

③研究推進体制や自立活動実施に向けての手順等整理

8

4 研究開発の内容と実施

(1) 教育課程の特例

	教育課程の特例の内容	指導内容	授業時数・単位数等
①	『自立活動』の指導 ※1年生は授業時数、 単位数として含めない	2・3年生の自立活動に向けての事前指導 ・障がいの認識や自己理解 ・感情やストレス対処のスキルを習得する	1年次：課外 ※実施時間数 (各生徒3回程度)
②	『自立活動』の指導 授業名：煌めく羅針盤	LSTの実施 ・自己や他者を理解する ・効果的なコミュニケーションのスキルを習得する	2年次：70時間 (2単位)
③	『自立活動』の指導 授業名：煌めく羅針盤	LSTの実施 ・卒業後の社会生活に必要な知識やスキルを習得する	3年次：70時間 (2単位)

※ LST (Life Skill Training)

9

① 1年生「煌めく羅針盤」の授業形態

	月	火	水	木	金
1限	<p>前期を実態把握の期間と位置づけ、各関係機関と連携を図りながら適切な情報収集に努める。後期から実施とするが、そのための代替科目がないために、放課後実施とした。</p>		<p>一回当たり50分とする。 計画では、年度末までに、一人3回、延べ12回を実施。 15:40～16:30</p>		
2限					
3限					
4限					
5限					
6限	<p>特別支援学校自立活動担当教員と本校特別支援Co、教務部長等の校内推進委員会で曜日・学校行事等を勘案して決定する。</p>				
放課後					

10

② 2年生「煌めく羅針盤」の授業形態

	月	火	水	木	金
1限	(ビジネス系列) 一般の生徒は(情報処理)を4時間受講している。				
2限					
3限		煌めく羅針盤 (情報処理)			
4限		煌めく羅針盤 (情報処理)			
5限					情報処理
6限					情報処理
放課後					

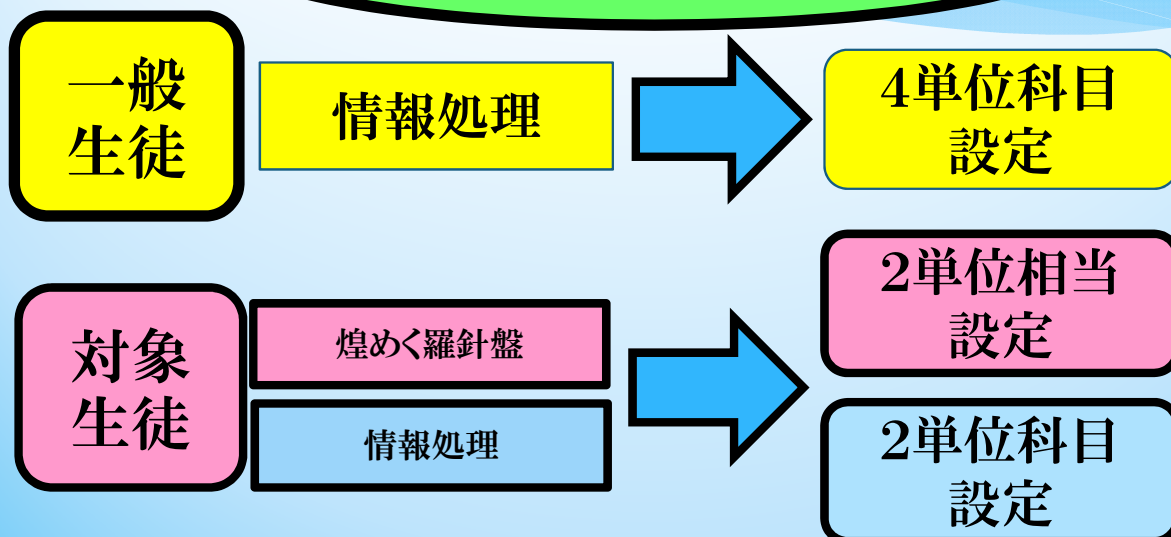
対象生徒の個別の教育支援計画等に基づき、状況に応じて、特別支援Co、自立活動担当教員、担任等と協議し授業スケジュールを決定する。

(ビジネス系列)対象生徒は、「情報処理」2時間の時間は、自立活動「煌めく羅針盤」と位置づける。

11

2年生「煌めく羅針盤」教育課程の考え方

(例)ビジネス系列の場合



12

③ 3年生「煌めく羅針盤」の授業形態

	月	火	水	木	金
1限					
2限					
3限					
4限					
5限					
6限					
放課後					

例で示す「異文化理解」は、全ての系列から選択できる自由選択科目群にあり、対象生徒が自立活動「煌めく羅針盤」の受講が可能となる。

13

①②③「煌めく羅針盤」時間割

	月	火	水	木	金
1限					
2限					
3限					
4限					
5限					
6限					
放課後	Aさん		Bさん	Cさん	Dさん

3年生 (月)

2年生 (火)

3年生 (木)

1年生 (水)

14

(2) 現行指導要領における一斉指導の改善工夫等

- ①一斉授業の改善については、授業に対する意識調査アンケートを実施
- ②ICT機器を活用している先進校視察や研修会への参加

15

- ③校内でのICT機器の活用による一斉授業の改善工夫等の方向性の確認

**「見える化授業」の推進
電子黒板と端末モバイルを活用した双方向授業の研究**

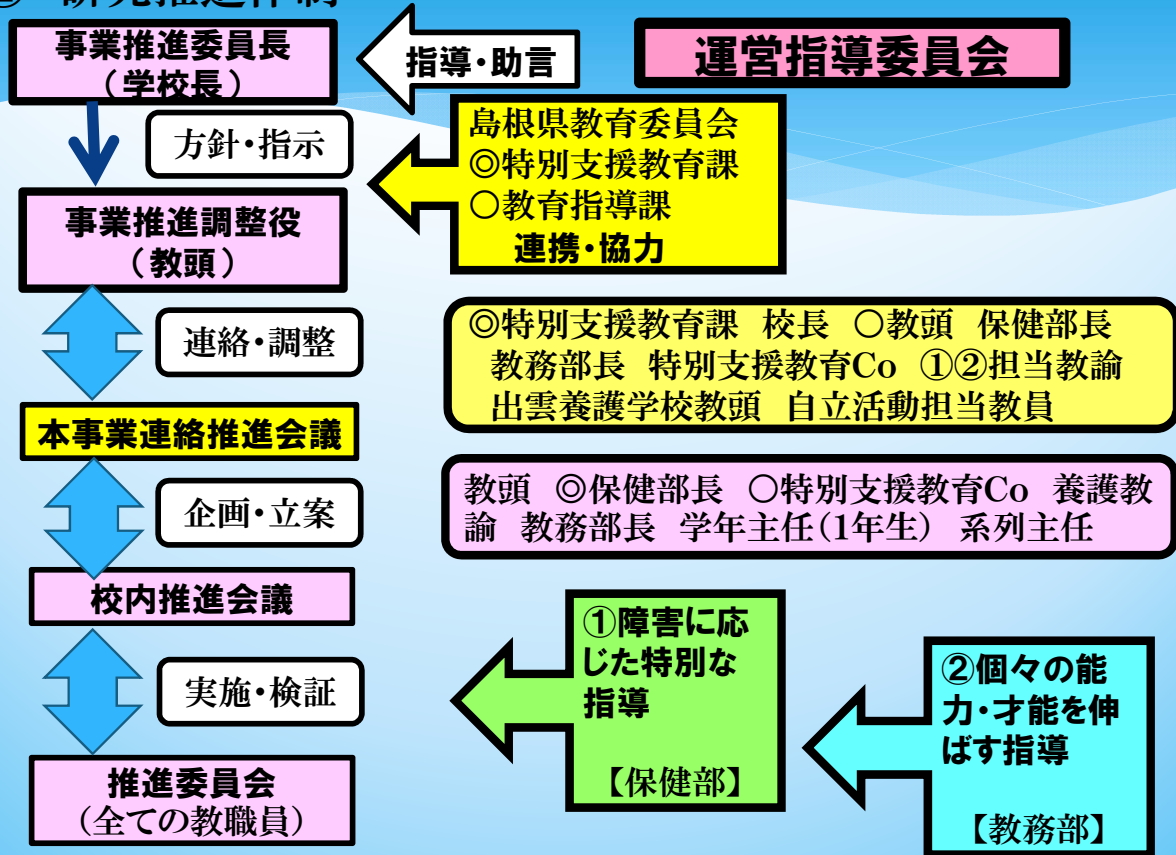
【目的】

- ①生徒の思考の過程や結果を可視化する。
- ②協働学習を電子黒板や端末モバイル活用することにより個々の思考を他の生徒と共有する。
- ③電子黒板や端末モバイル活用を活用することにより、思考力・判断力・表現力を育成する。

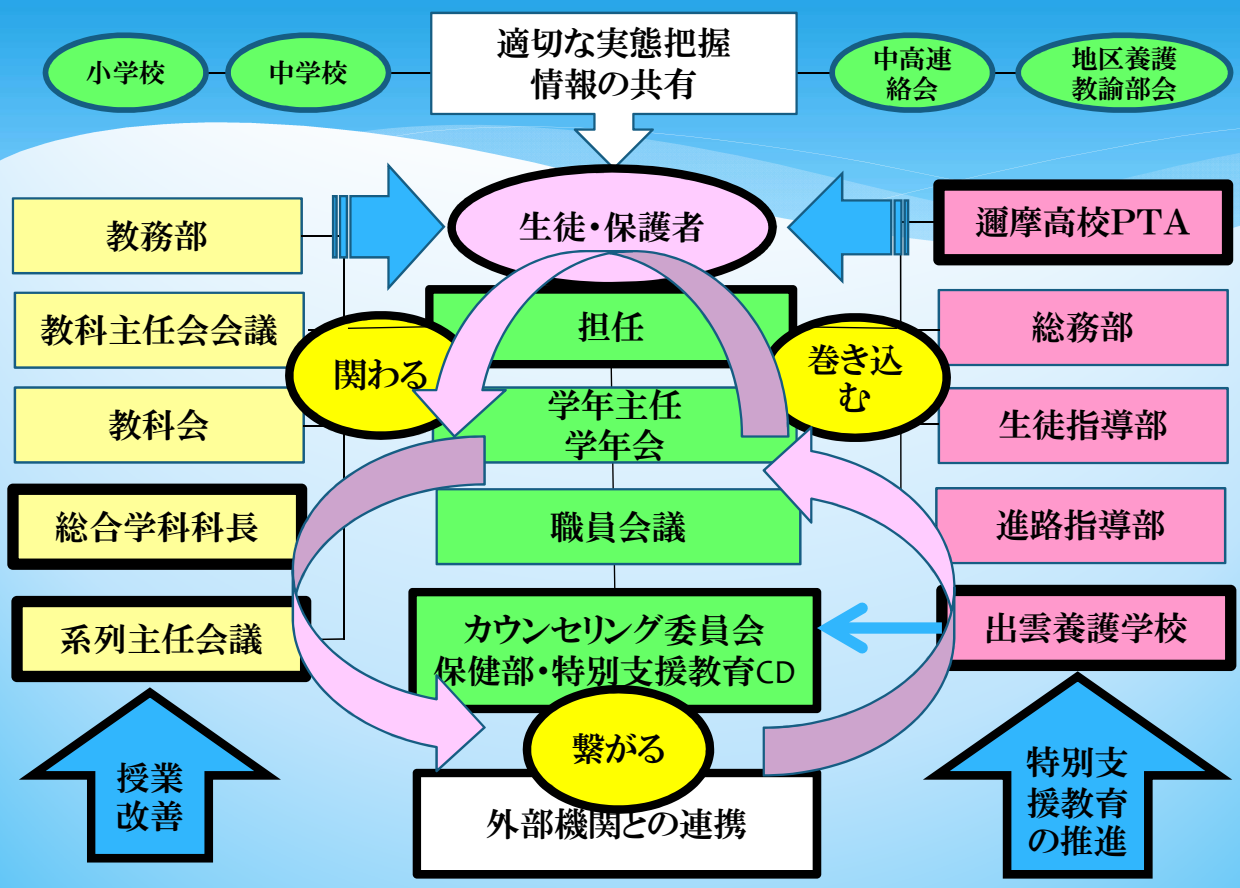
16

(3) 研究推進体制や自立活動実施に向けての手順等

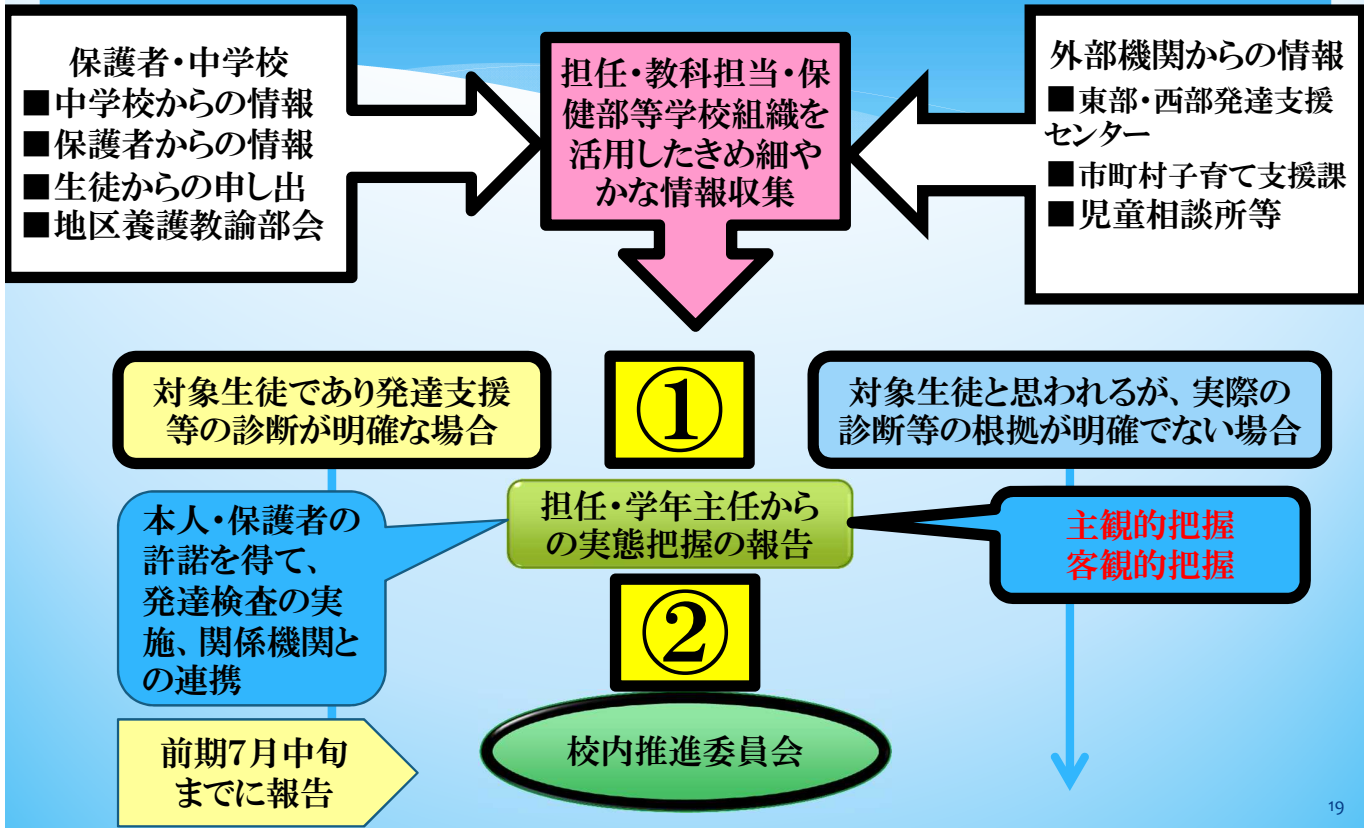
① 研究推進体制



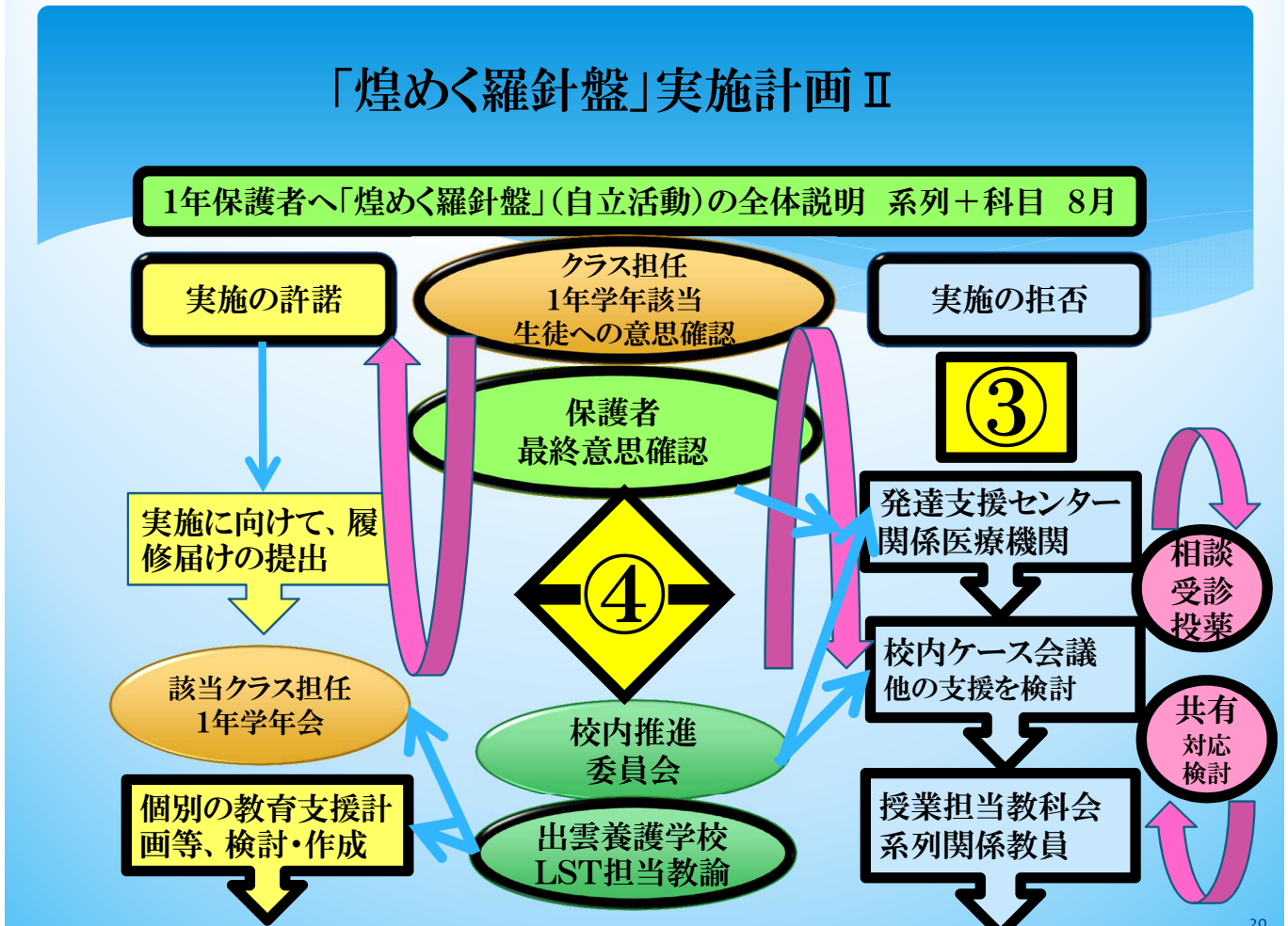
② 校内特別支援教育体制



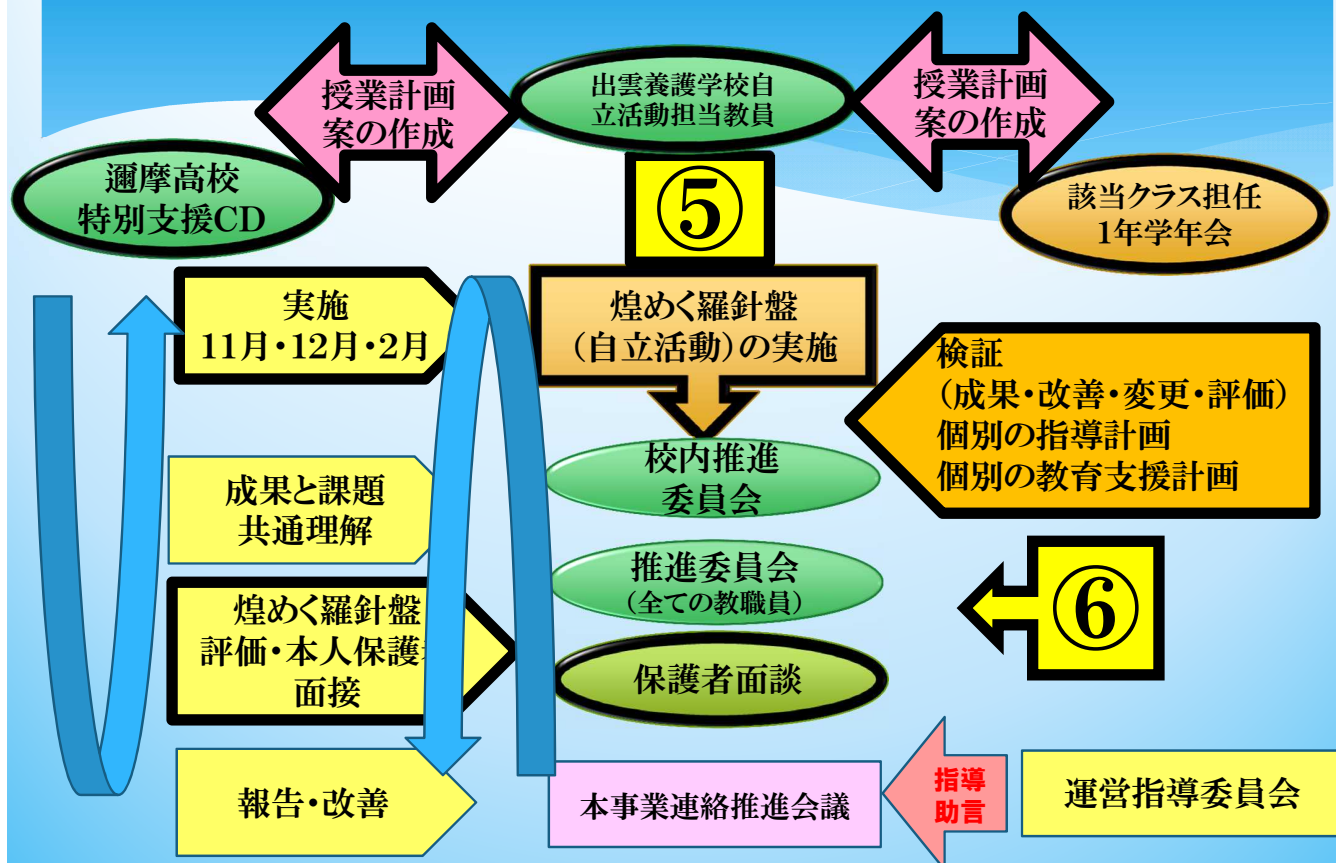
③実態把握と障がいに応じた特別な指導 「煌めく羅針盤」実施計画Ⅰ



「煌めく羅針盤」実施計画Ⅱ



「煌めく羅針盤」実施計画Ⅲ



21

5 研究開発の成果と課題

(1) 研究開発の成果

① 生徒への効果

(ア)「自立活動」の実施

- ・自立活動を前向きにとらえ、学習後には達成感のある内容の感想を述べた。
- ・自立活動担当者や担任等から見守られているという安心感をもって学習に臨むことができた。
- ・自分からあいさつをするようになった、リラックスして活動ができるようになった等、周囲から生徒の変容の報告があった。

22

(イ) 一斉指導の改善工夫

- 授業の見通しをもてるように、学習内容を明確にすることで積極的に取り組むことができた。
- ICT機器(電子黒板、タブレット端末)を活用して、視覚的な提示をすることで、学習の理解や学習意欲を高めることができた。

23

② 教員への効果

(ア)「自立活動」の実施

- 発達障がい、自立活動、通級による指導などについての基本的知識を学ぶことができた。
- 学校全体で特別支援教育に対する意識が高まり、校内の新しい体制づくりにつながった。

(イ) 一斉指導の改善工夫

- 生徒の意識調査から、授業改善に向けての考えを共通理解し、改善に取り組めた。
- ICT機器の活用による、授業改善の工夫が進んだ。

24

③ 保護者等への効果

(ア) 自立活動対象生徒の保護者

- ・高等学校での自立活動について理解を示し、生徒の履修を積極的に望まれた。

(イ) 自立活動対象以外の生徒の保護者

- ・学年集会で自立活動について全体の保護者へ説明し、周知を図ることができた。

25

(ウ) 自立活動対象以外の生徒

- ・本事業の取組が、不登校や学校不適應を防ぐことにつながればよいという意見文を書いた生徒もおり、関心が深まっている。

(エ) その他

- ・近隣の中学校から、事業の問い合わせや学校見学の依頼があった。

26

(2) 研究開発の課題

① 「自立活動」の実施の課題

- ・1年生段階では、必履修科目や系列に分かれる専門教科から、自立活動の代替科目を確保することができず、課外の実施となった。
- ・自立活動は、個別学習を基本として考えていたが、対象生徒が増えた際の時間割編成や集団学習設定の工夫の必要がある。
- ・自立活動の代替科目を選定する場合、学習の積み重ねが必要な科目(例:簿記)や実技を伴う実習などは避ける等の様々な制約が出てくる。

27

② 高等学校と特別支援学校分教室との連携

- ・自立活動担当教員(特別支援学校分教室教員)と高等学校学年会、担任、教務部が綿密な連携を図るための情報共有や協議をするための体制づくりが必要である。
- ・高等学校の特別支援コーディネーターの役割が重要となる。

③ 教務・進路関係

- ・電子システムの導入により、自立活動の出欠や授業時数の入力が他生徒と異なり、システムの変更や正確な入力の必要がある。
- ・進路決定の際に、就職の全国統一応募用紙や調査書への自立活動単位修得の記載をどうするか。
- ・自立活動を履修した生徒に対する社会的理解が深まっているか。

28

島根県立遼摩高等学校教育課程表(平成27年度)

(別紙①)

課程	学 科	類型の名称
全日制	総合学科	

1年次				
教科	科目	標準 単位数	履修 単位数	備考
必修 修科目	国語	国語総合	4	4
	公民	現代社会	2	2
	数学	数学Ⅰ	3	4
	理科	科学と人間生活	2	2
	保健体育	体育	7~8	2
		保健	2	1
	芸術	音楽Ⅰ	2	2
		工芸Ⅰ	2	2
	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	4
	家庭	家庭総合	4	2
	情報	社会と情報	2	2
総合的な学習の時間			3~6	0
1年必修修科目単位数計				25
原則履修科目	産業社会と人間	学校設定	2	

2年次					
教科	科目	標準 単位数	履修 単位数	備考	
必修 修科目	地理歴史	世界史A	2	2	
	理科	生物基礎	2	2	
	保健体育	体育	7~8	3	
		保健	2	1	
	家庭	家庭総合	4	2	
	総合的な学習の時間			3~6	1
	2年必修修科目単位数計				11
原則履修科目			0		

3年次					
教科	科目	標準 単位数	履修 単位数	備考	
必修 修科目	地理歴史	日本史A	2	2	
		地理A	2	2	
	保健体育	体育	7~8	2	
		総合的な学習の時間			3~6
	3年必修修科目単位数計				7
	原則履修科目			0	

3年間合計

ホームルーム活動	1
必修修科目単位数計	25
原則履修科目単位数計	2
総合・自由選択科目単位数計	2
週当たり時数合計	30
学校設定科目	2~4

ホームルーム活動	1
自立活動(煌く羅針盤)	0~2
必修修科目単位数計	11
原則履修科目単位数計	0
総合・自由選択科目単位数計	18
週当たり時数合計	30
学校設定科目	0~2

ホームルーム活動	1	3
自立活動(煌く羅針盤)	0~2	0~4
必修修科目単位数計	7	20
原則履修科目単位数計	0	2
総合・自由選択科目単位数計	22	70
週当たり時数合計	30	90
学校設定科目	0~10	2~16

系列	1年次				
	教科	科目	標準 単位数	履修 単位数	備考
文化	① 国語	国語表現入門	学校設定	A2	
	① 英語	総合英語	2~14	A2	
農業	① 農業	農業と環境	2~6	A2	
ビジネス	① 商業	ビジネス基礎	2~5	A2	
生活	① 国語	国語表現入門	学校設定	A2	保モ
	① 家庭	生活基礎	学校設定	A2	被モ・食モ
	① 英語	総合英語	2~14	A2	保モ
福祉	① 福祉	コミュニケーション技術	2~6	A2	
共通					

注意
 ①ビジネス系列は情報・会計モデル(情モ)と流通モデル(流モ)に、生活系列は保育モデル(保モ)と被服モデル(被モ)と食物モデル(食モ)に分かれる。
 ②備考欄のモデルは選択対象モデルを示している。
 ③IIを付した科目の選択は、Iを付した科目を既に履修したものに限る。
 ④各教科名の前の①は総合選択科目を、②は自由選択科目を示している。

系列	2年次				
	教科	科目	標準 単位数	履修 単位数	備考
文化	① 国語	古典A	2	A2	
	① 数学	数学Ⅱ	4	I2	3年次と継続
	① 外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	4	ウエ4	
農業	① 農業	総合実習	2~8	アイ4	
	① 農業	野菜	2~8	オ2	
	① 農業	草花	2~8	カ2	農モ
	① 農業	食品製造	2~10	ウ2	
	① 農業	生物活用	2~6	エ2	農モ
ビジネス	① 商業	簿記	2~8	オカ4	
	① 商業	財務会計Ⅰ	2~4	イウ4	情モ
	① 商業	原価計算	2~6	イウ4	流モ
	① 商業	情報処理	2~6	アイ4	
生活	① 芸術	幼児教育音楽	学校設定	I2	保モ
	① 外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	4	ウエ4	保モ
	① 家庭	子どもの発達と保育	2~6	A2	保モ
	① 家庭	ファッション造形基礎	2~6	アイ4	被モ
	① 家庭	フードデザイン	2~6	アイ4	食モ
福祉	① 福祉	社会福祉基礎	2~6	アイ4	
共通	① 国語	現代文B	4	2	3年次と継続
	① 数学	数学A	2	2	
	① 外国語	英語表現Ⅰ	2	2	
	② 国語	現代文A	2	ウ2	
	② 地理歴史	日本史B	4	オカ4	
	② 理科	化学基礎	2	カ2	
	② 理科	地学基礎	2	オ2	
	② 芸術	音楽Ⅱ	2	カ2	
	② 芸術	工芸Ⅱ	2	カ2	
	② 外国語	英語会話	2	オ2	
	② 農業	草花	2~8	カ2	
	② 農業	生物活用	2~6	エ2	
	② 商業	ビジネス実務	2~4	オ2	
	② 商業	情報処理	2~6	カ2	
	② 家庭	子どもの発達と保育	2~6	ウ2	
② 家庭	ファッション造形基礎	2~6	ウエ4		
② 家庭	服飾手芸	2~4	エ2		
② 家庭	フードデザイン	2~6	ウエ4		
② 福祉	こころとからだの理解	2~12	オ2		

系列	3年次				
	教科	科目	標準 単位数	履修 単位数	備考
文化	① 国語	演習国語	学校設定	ウ2	
	① 数学	数学Ⅱ	4	ク2	2年次から継続
	① 外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	アイ4	
	① 外国語	英語表現Ⅱ	4	エオ4	
農業	① 農業	課題研究	2~6	A2	
	① 農業	総合実習	2~8	カキ4	
	① 農業	野菜	2~8	イウ4	農モ
	① 農業	草花	2~8	イウ4	農モ
	① 農業	食品製造	2~10	イウ4	農モ
	① 農業	微生物利用	2~6	エ2	農モ
	① 農業	生物活用	2~8	エ2	農モ
	① 商業	課題研究	2~6	カ2	
	① 商業	総合実習	2~6	オ2	
	① 商業	ビジネス実務	2~4	ウ2	流モ
ビジネス	① 商業	マーケティング	2~4	アイ2	流モ
	① 商業	広告と販売促進	2~4	イ2	流モ
	① 商業	経済活動と法	2~4	カ2	
	① 商業	財務会計Ⅱ	2~4	ク2	情モ
	① 商業	原価計算	2~6	ウエ4	情モ
	① 商業	ビジネス情報	2~6	エ2	流モ
	① 商業	ビジネス情報	2~6	アイ4	情モ
	① 家庭	課題研究	2~6	エ2	
	① 芸術	幼児教育音楽	学校設定	キ2	保モ
	① 外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	アイ4	保モ
生活	① 家庭	子どもの発達と保育	2~6	ウ2	保モ
	① 家庭	子ども文化	2~4	カ2	保モ
	① 家庭	ファッション造形	6~10	アイウ6	被モ
	① 家庭	食文化	1~2	オ2	食モ
	① 家庭	調理	2~18	アイウ6	食モ
	① 福祉	課題研究	2~6	オ2	
福祉	① 福祉	介護福祉基礎	2~6	エ2	
	① 福祉	生活支援技術	2~12	ウ2	
共通	① 福祉	介護総合演習	2~6	アイ4	
	① 国語	現代文B	4	2	2年次から継続
	① 数学	数学総合	学校設定	ク2	
	① 英語	英語理解	2~8	ウ2	
	② 国語	国語表現	3	エ2	
	② 国語	古典B	4	カキ4	
	② 地理歴史	世界史A	2	オ2	
	② 地理歴史	世界史B	4	カキ4	
	② 数学	数学B	2	ケ2	
	② 理科	生物	4	カキ4	
	② 芸術	美術Ⅰ	2	エ2	
	② 芸術	ハンダ習字	学校設定	ク2	
	② 外国語	中国語	学校設定	ケ2	
	② 外国語	韓国語	学校設定	ク2	
	② 農業	農業経営	2~6	オ2	
② 農業	食品流通	2~6	ク2		
② 商業	ビジネス基礎	2~5	オ2		
② 商業	情報処理	2~6	ケ2		
② 家庭	子ども文化	2~4	キ2		
② 家庭	食文化	1~2	カ2		
② 体育	ホーリ総合演習	2~4	ク2		
② 音楽	器楽	2~15	オ2		
② 英語	異文化理解	2~6	ケ2		
② 英語	時事英語	2~6	ク2		

系列	2年次		
	領域別の指導	履修 単位数	備考
共通	自立活動 (煌く羅針盤)	A~カ2	いずれかで2単位分

系列	3年次		
	領域別の指導	履修 単位数	備考
共通	自立活動 (煌く羅針盤)	A~ク2	いずれかで2単位分

*「自立活動(煌く羅針盤)」は、学校教育法施行規則第85条に基づき設定する障がいに応じた特別の指導

<2年次> ・自立活動(煌く羅針盤)対象生徒は、2単位分履修する。
 <3年次> ・自立活動(煌く羅針盤)対象生徒は、2単位分履修する。